

# 第5回噴火湾ホタテガイ情報(2013年) 発行日：平成25年6月7日

発行：函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力：胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

湾全域の沿岸と沖合に高密度のラーバが分布しています（平均密度：沿岸3,961個/トッ、沖合4,136個/トッ）。これらのラーバ密度は過去最高密度の種苗が採取できた一昨年（2011年）の6月よりも高密度です。今年も、過去最高レベルの採苗が期待できます。

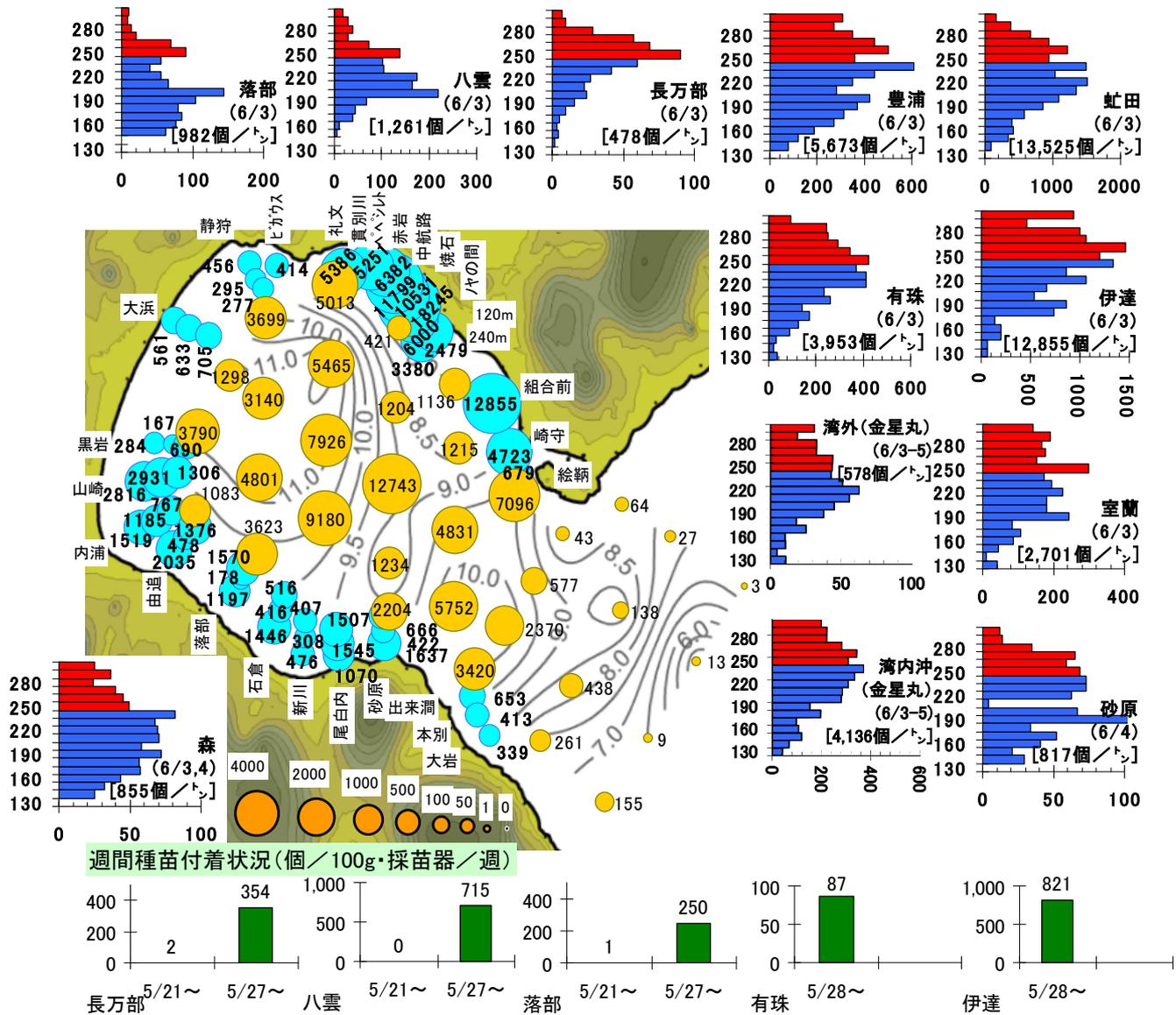


図1. ホタテガイラーバのサイズと分布状況および種苗の付着状況(2013年6月3-5日)、丸の大きさと下部の添付数字はラーバ密度(個/トッ)、灰色曲線と数字は深度10mにおける等水温線と水温(°C)。(沿岸部の調査地点は実際の位置よりも沖合にプロットしています。)

【概要】 6月3-5日に、函館水産試験場の試験調査船「金星丸」により、噴火湾のラーバ調査及び海洋観測を行いました。湾全体に6月としては、過去最高密度のラーバが分布しています（沿岸：817~13,525個/トッ、湾内沖合：421~12,743個/トッ）。サイズは中型（殻長200~250μm）と大型（殻長250~300μm）のラーバが多く、今後、長期にわたり良好な採苗が期待できます。

各地区水産技術普及指導所の調査でも、中型~大型のラーバの高密度な分布が報告されており、「採苗器の投入」を呼びかけています。

次回の全湾のラーバ調査及び海洋観測は、7月1日の週に、函館水産試験場調査船「金星丸」で実施する予定です。（連絡先：函館水産試験場 馬場・金森・佐藤 TEL:0138-57-6074）

（注：湾内沖及び湾外のラーバサイズ組成に誤りがあったため修正しました。2014/07/08）

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/

【環境情報】

海底上5mの溶存酸素濃度は最低地点で3.7mL/Lですが、ほとんどの地点は4.0mL/L以上あり、貧酸素水塊はまだそれほど発達していません(図2、貧酸素の目安は2~3mL/L)。

最深地点の水温は、表層から15m以浅で高く11.0~12.1℃、深度15~50mでは水温は11.0℃から4.0℃に徐々に低下し、それ以深では3.3~4.0℃と安定しています(図3)。水深17m以浅には高温で低塩分の夏季噴火湾水が発達しています。溶存酸素濃度は深度80m付近から低下しています(図3)。

湾外の深度40m以深には、例年よりも水温の低い2.0~3.0℃の水が分布しています(図4①)。早い年では、この時期の湾口部に塩分濃度の高い(塩分33.4以上)津軽暖流水が迫っていますが、今年はまだほとんど見られません(図4②)。底層水の低酸素化はやや進んでいますが、まだ心配するレベルではありません(図4④)。

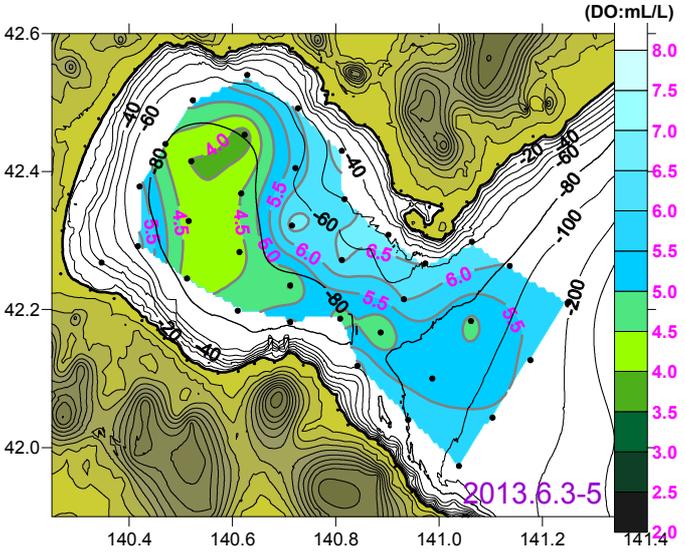


図2. 海底上5mの溶存酸素濃度分布(2013年6月3~5日)

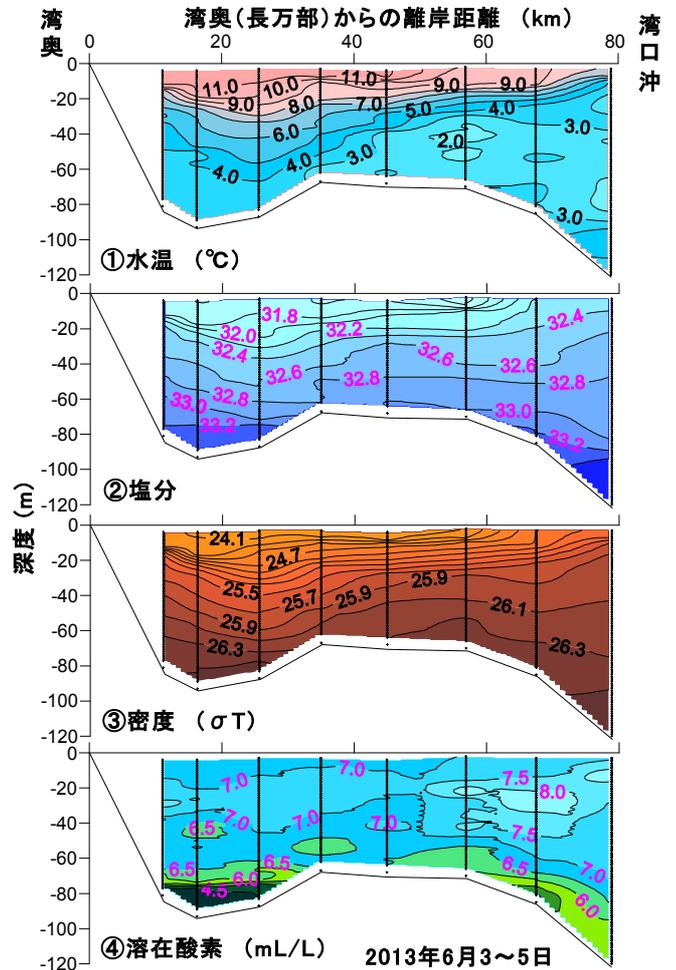


図4. 噴火湾縦断面の環境変量分布(2013年6月3~5日)

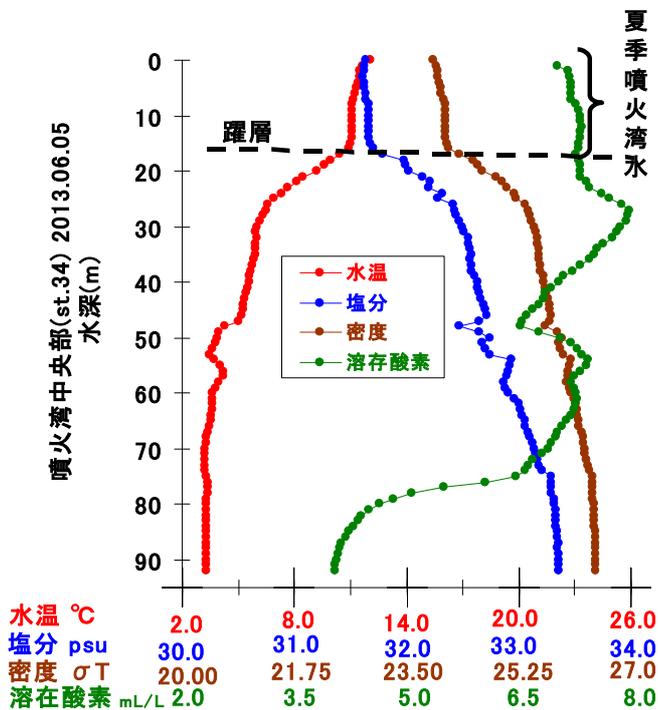


図3. 最深地点(st34)における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布(2013年6月5日)